Soshin PRESS 2020
Department of General Medicine Hiroshima University Hospital
広島大学病院 総合内科・総合診療科 ニュースレター vol.1

◉同門会のみなさまへ

新しい広島大学病院 総合内科・総合診療科を どうぞよろしく お願い申し上げます

伊藤 公訓
Masanori Ito
広島大学病院
総合内科・総合診療科
教授

令和元年10月1日付で田妻進先生の後任として広島大学病院 総合内科･総合診療科教授を拝命いたしました伊藤公訓でございます。大変遅くなりましたが、総合内科･総合診療科同門会の皆様に謹んでご挨拶を申し上げます。また、平素より教室に多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

医療の急速な専門化･細分化に伴い、プライマリ･ケアを行う医師（総合医･家庭医）への社会的ニーズが高まっています。当科の最も重要なミッションは、「社会に貢献できる優秀な総合医･家庭医を育成すること」と考えております。これまで、総合医･家庭医を志す広島の若い医師が、当科ではなく全国の有名病院へ研修に出ていく姿を多く見て参りました。今でも胸が裂けるような思いです。

この広島にも、優秀な指導医の先生が多数おられます。皆様のお力を結集すれば、決して亀田にも、麻生飯塚にも、沖縄中部にも負けない、素晴らしい研修が提供できるはずです。むしろ全国の若手医師が、この広島での研修を希望して集まってくれるような、そんな研修基盤を作りたいと強く願っております。そのためには、松田聡介会長をはじめ同門の先生方のお力添えがどうしても必要です。

総合診療科を志す若者が全国的に少ない中、幸い当科や関連施設には、将来有望な若手医師が多数います。同門会の皆様におかれましては、ぜひ彼らにご支援をお願いします。伊藤ではなく、彼らのことを支えてください。心よりお願いを申し上げます。

また教室では、菅野啓司准教授をはじめ、優秀なスタッフが揃っております。同門会の活動に関しましても、できる限りの対応をさせていただきます。同門会事務局はこれまでと変わらず当教室内に置き、事務局は教室の米澤さやか（sayaka22@hiroshima-u.ac.jp）が担当いたします。教室の現状について、ご報告を添付いたしました。ご参考になれば幸いでございます。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍の折、皆様大変な状況と拝察申し上げます。どうぞご自愛くださいませ。

（令和2年7月7日）

菅野 啓司 Keishi Kanno
准教授
医局長

新しい仲間も増え それぞれの活動が始まっています

平素より同門会等を通じて教室運営にご協力を賜り心より感謝申し上げます。

新体制の下、2020年度も新たな入局者を迎えることができ、医局スタッフも総勢14名に増え臨床、研究、教育それぞれの活動をはじめることができました。臨床の場では、岸川病棟医長、宮森外来医長のリーダーシップにより外来診療と日々のカンファレンスが効率的かつシステマティックなものに改革され、スタッフ全員の情報共有が容易となり診療の質の拡充がなされました。また、本年度からは専攻医が自発的に症例検討会を行うようになったことで医局全体が活性化し、医局長として大変喜ばしく感じております。学術研究の場において昨年度は当教室の伝統でもある肝胆道領域の研究で2名の医学博士を輩出しました。現在、大学院生8名（博士課程6名、修士課程2名）が、研究員のNguyen先生の協力を得て、ますます精力的に研究活動を行っております。学生教育の場では、大谷助教が新型コロナウイルスの影響によりオンライン授業のシステム構築にたいへん苦労しながら、ようやく授業開始に至りました。専門医の育成では、小林助教が管理責任者として一層積極的に活動しており、優秀な専門医が育成されるものと大きく期待を寄せております。初期研修では菊地助教が総合診療医･家庭医の役割、魅力を若い世代に伝えるため、学外研修導入を目指し努力しております。

以上のように、未熟ながらも教室員一同がそれぞれの役割を果たしながら一致団結して、社会に役立つ魅力的な診療科を目指して活動を行っております。引き続き同門会の皆様の暖かいご協力をお願い申し上げます。

岸川 暢介 Nobusuke Kishikawa
講師
病棟医長

期待に応えるため 情報共有の効率化と新たな試みにもチャレンジ

広島大学病院 総合内科･総合診療科では年間100件ほどの入院患者の診療にあたります。その内訳は不明熱の精査が最も多く、自己免疫性疾患、悪性腫瘍の精査、感染症治療と続きます。このことからも特に不明熱精査が「大学病院の総合診療科」へ求められている責務のひとつであると感じております。また、先生方のご期待にお応えするための人材を確保し、学生、若手医師の教育にも尽力させていただく所存です。そのためにも、スタッフの働き方や情報共有の効率化にも力を入れ、新たな試みにもチャレンジしております。

外来診療が縮小される傾向にあるなか、今以上の入院患者数を確保するため、人材を育成するためには同門のみなさまからの紹介が必要不可欠です。先生方から安心してご紹介いただきますよう、大学病院スタッフ一同鋭意努力していきますので、これからもご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

臨床推論カンファレンスを開催 個々の診療能力の向上を目指す

宮森 大輔 Daisuke Miyamori
助教
外来医長

2020年４月より外来体制を刷新し、スタッフを中心とした外来運営へと変更いたしました。ご紹介頂きました患者さまにつきましては、総合診療、感染症、救急などの多彩な背景を持つスタッフが責任をもって、初診から経過フォローについても対応させていただきます。

外来患者数については、外来初診が40件／月、再診600件／月前後で推移しております。限られた症例で教育効果を高めるために、臨床推論能力の向上を目的として臨床推論カンファレンスを開催し、人材育成に取り組んでおります。

地域連携を介した紹介に加えて、平日日中（午前８時半から午後４時）の当日紹介も受け付けております。お気軽に当科の外来責任者宛てにお電話をいただけると幸いです（最後の頁の外来診療担当表をご参照ください）。

引き続き先生方と連携を深めさせていただければと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

コロナ感染に伴う学生教育の現状と 院外実習のお願い

大谷 裕一郎 Yuichiro Otani
助教
学生教育担当

皆様のおかげで2020年度も総合内科･総合診療科では、臨床実習を中心にコミュニケーション学、漢方医学、医療面接、大学院の総合医療実践学を担当し学生教育に携わらせていただいています。昨年度からは蓮沼直子先生が医学教育センター教授に着任され、臨床実習前の実技指導や臨床推論といった分野で我々に活躍する機会を増やしていただきました。学生への教育を通じ自身の研鑽につながるものと教務担当として嬉しく思っております。当診療科では従来と変わらず学生に診療所、医院、クリニック、市中病院、山間部の病院と様々な場を経験させ、地域医療の最前線の現場で役に立つ家庭医や総合医育成に取り組んでおります。皆様方には、これまで通り院外実習や講義でご協力をいただければ幸いに存じます。コロナウイルス感染症の流行に伴い多少の混乱はありますが、頼りになる仲間とともに目的に向かって邁進させていただく所存です。

魅力ある研修プログラムの構築 院外研修としてスタッフ外勤先への帯同研修を開始

菊地 由花 Yuka Kikuchi
助教
初期臨床研修教育担当

当科では例年、1･2年次合わせて年間15-20名程度の研修医を迎えておりましたが、本年度より１年次での外来研修が必修化されたことで人数が更に増え、年間30名を超える（月3-5名）研修医がローテート予定となっております。しかし、新型コロナウイルスの影響で患者数は昨年度より減少に転じ研修医に経験させるべき症例も限られ、教育体制の構築に日々頭を悩ませております。

総合診療･家庭医療では取り扱う領域が多岐に渡っており、その幅広い魅力を伝えるには大学という限られた場所での研修だけでは困難と考えております。より魅力ある研修プログラム構築のため、４月より院外研修として当科スタッフ外勤先への帯同研修（外来などの業務見学）を開始しており、研修医からも好評を得ております。今後は各研修医のニーズに合わせ、より多く院外研修の選択肢を増やして参りたいと考えており、同門の先生方にご協力を賜ることもあろうかと存じますが、その際は何卒よろしくお願い申し上げます。

多様化する社会において増加する 『総合診療医』に対する社会的ニーズ

小林 知貴 Tomoki Kobayashi
助教
専門研修プログラム・
専門医制度運営責任者

2018年度より新たに開始された専門医制度のもと、19番目の基本領域として「総合診療科」が新設されました。これは、高齢化が進み、多様化する社会において、複数の疾患や複雑な背景をもつ患者を、臓器横断的な診療のみならず、患者背景を考慮した全人的な診療を行なうことのできる『総合診療医』に対する社会的ニーズの増加の現れと考えております。

当科では、これまで家庭医療専門医養成コースとして、10名の家庭医療専門医を輩出し、このプログラムを引き継ぐ形で、「広島大学病院 総合診療専門研修プログラム」として、現在４名の専攻医が研修を行っております。今後も多くの専攻医に当科の研修プログラムを選択していただき、広島県の地域医療に貢献できる人材を育成できるよう、研修内容の充実により一層努めてまいります。同門会の先生方には、引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

興味尽きぬ漢方の力
外来研修も積極的に受け入れています

石田 亮子
Ryoko Ishida
講師
地域医療システム学講座
漢方診療センタースタッフ

2015年、漢方診療センターは田妻進前教授の元に発足しました。2019年、伊藤公訓教授がセンター長に、岸川暢介講師、医学教育センター長 蓮沼直子教授が副センター長に就任され、新体制となりました。当院は日本東洋医学会指定研修施設であり、複数の専攻医が指導医の外来に陪席し、研鑽を積んでおります。また定期的に漢方勉強会を開催し、見識を深めております。当センターでは、東洋医学研修を希望される先生方を積極的に受け入れており、ご興味がある方がおられましたら、お問い合わせください。

漢方は万能ではありませんが、いわゆるMedically unexplained physical symptoms（冷え、腹痛、慢性下痢、倦怠感、口渇のような愁訴）に対して著効することがあります。

現在、下記のとおり新患外来を設けておりますので、もし漢方診療を希望される方がおられましたら当センターにご紹介下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。

漢方診療センター
新患外来

月	火	水	木
13：00〜15：00 石田　亮子 武生英一郎	8：30〜11：00 中島　正光	第２・４ 14：00〜15：00 竹内　啓祐	第２・４ 14：00〜15：00 菊本　修

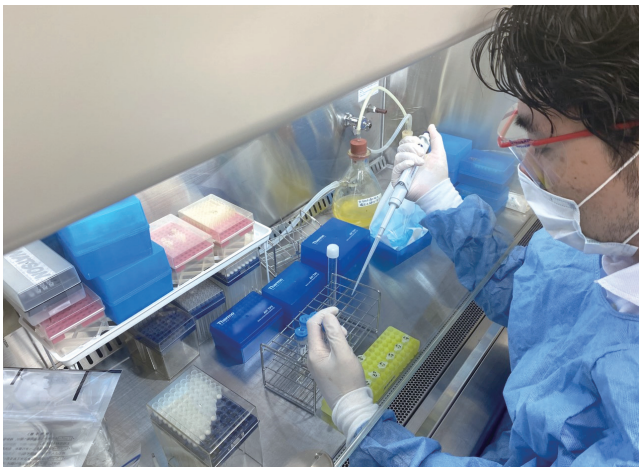
理想の医師像を語る学生たちと
コロナ禍においても前向きな交流を

吉田 秀平
Shuhei Yoshida
助教
地域医療システム学講座

2020年４月からは、COVID-19の感染拡大を受けて、当講座で行っていた、1年から4年の地域枠学生が週に1回集う「ふるセミ」も、オンラインに切り替え開催をしておりました。全体での企画に加え、学年間での交流も持てるようにスモールグループでのディスカッションを行う時間も設けました。特に1年生は、入学して、まだ新しい友人も作ることもできておらず、不安な気持ちもあったかと思います。しかし、そのような状況下でも、ふるセミ終了後に１年生だけで会話する場を自主的に用意し、何とか前向きに交流を行い、教員との面談時にも将来の自身に対する理想の医師像などを語ってくれました。コロナ禍の中でも、学生たちが成長して、将来の広島の地域医療を担えるように微力ではございますが、尽力していく所存です。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

Covid-19の第２波、第３波が懸念される中
十分な医療体制や検査体制の構築が必要

柿本 聖樹
Masaki Kakimoto
医科診療医



大学院の研究としてHIVに関連した研究を行っており、主に当院ウイルス学研究室で実験をさせて頂いております。この度、ウイルス学坂口剛正教授よりお声がけを頂き、４月末よりSARS-CoV-2のPCR検査への参加をさせて頂いております。現在、週３回のPCR検査を行っており、咽頭ぬぐい検体からのRNA抽出、PCR検査を行っております。検体数にもよりますが、コンタミネーションや検査手順に注意しつつ、常にダブルチェックを行い、検査判定まで最短で４時間程度で結果の判定を行っております。結果判定につきましては、ウイルス量が極めて少ない場合などは、非特異的反応であるのか、検査結果の解釈に難渋することもございます。

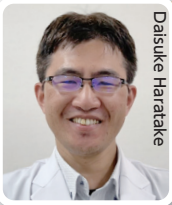
抗体検査、LAMP法、RNAの直接抽出法や全自動遺伝子検査装置などもございますが、今後それぞれの検査法をどのような立ち位置にするか、第２波、第３波が懸念される中、十分な医療体制や検査体制の構築が必要となると考えております。ウイルスの流行終息を願いつつ、微力ながらもお役に立てれば幸いと考えております。

医局員紹介

どうぞよろしくお願いします！

Akihiro Kawahara

原武 大介 先生


Daisuke Haratake

- 出身地：福岡県
- 出身校：広島大学（平成24年度卒）
- 血液型：A型
- ニックネーム：
  だいちゃん or たけさん
- 中高時代の部活は：
  バレーボール、柔道、軟式野球、天文など
- 最近はまっている事：
  ウーバーお父さん（自宅焼き鳥最高です）
  あつまれどうぶつの森（家族みんなではまっています）
  ピアノ（10年以上ぶりに再開しました）
- どんなお子さんでしたか：
  親の言うことをきき、兄弟の面倒をみるよい子
- 尊敬する人は：父
- 10年後どんな医師になっている？なっていたい？：
  患者さんからの信頼の厚い医師
- 広大総合診療科の一員として力を入れたいこと：研修医教育など
- ひとこと挨拶：まだまだ力不足ですが頑張ります。

編集長からひとこと

愛妻弁当、ヴェルファイア、クサイ台詞をさらりと言えることが原武先生のチャームポイント。いつも後期研修医の御指導にご尽力いただきありがとうございます。小園先生もピアノを習っているそうです。世間が落ち着きましたら二人の連弾に耳を傾けながら、グラスを傾けたいものです。ちなみに子供の時の素行は私と真逆です。

槙坪 良時 先生

Yoshitoki Makitsubo

- 出身地：広島市
- 出身校：川崎医科大学（平成27年度卒）
- 血液型：A型
- ニックネーム：まっきー
- 中高時代の部活は：剣道
- 最近はまっている事：映画鑑賞
- どんなお子さんでしたか：よく食べる子
- 尊敬する人は：父
- 10年後どんな医師になっている？なっていたい？：
  総合的に診れる医師
- 広大総合診療科の一員として力を入れたいこと：
  外来から訪問診療まで、幅広く対応できる一員になりたい
- ひとこと挨拶：
  少しでも患者さんの不安や負担を取り除けるよう心がけています。

編集長からひとこと

この度、初めて大学病院へ勤務となりますね。赴任してくるのをキリンぐらい首を長くしてずっとまっていました。病院の規模が大きくなれば、組織も業務も細分化され、マネジメントにおいて今までとは違う点で戸惑うこともあろうかと思います。一緒に医療の高みを目指して切磋琢磨し合いましょう。

浅野 駿太郎 先生

Shuntaro Asano

- 出身地：三原市
- 出身校：金沢医科大学（平成27年度卒）
- 血液型：AB型
- ニックネーム：駿太郎くん
- 中高時代の部活は：パソコン部
- 最近はまっている事：
  コロナウイルス関係の勉強
- どんなお子さんでしたか：物静か
- 尊敬する人は：法西先生
- 10年後どんな医師になっている？なっていたい？：
  広島県を愛する医師
- 広大総合診療科の一員として力を入れたいこと：
  広島県及び広島大学病院を盛り上げるため、若手の先生、ベテランの先生と力を合わせて楽しく診療をしていきます。よろしくお願いします！

編集長からひとこと

外来で初期研修医へ指導をされている先生を見ると、成長を感じ嬉しく思います。不要不急の外出制限の中、当教室でもビジネスモデルの変革が見受けられ、宮森先生がYouTuberになられました（研修医教育のため）。助手を探しており、是非先生にお力添えいただきたいです。みなさまもチャンネル登録お願いいたします！

松石 まいこ 先生

Maiko Matsuishi

- 出身地：長崎県
- 出身校：日本医科大学（平成28年度卒）
- 血液型：O型
- ニックネーム：土井ちゃん
- 中高時代の部活は：陸上・テニス
- 最近はまっている事：
  特にないです。見つけておきます。
- どんなお子さんでしたか：走り回ってました
- 尊敬する人は：仕事に関しては父親
- 10年後どんな医師になっている？なっていたい？：
  一般的な医療がそこそこできる人
- 広大総合診療科の一員として力を入れたいこと：
  何か役に立てそうなことがあれば頑張ります
- ひとこと挨拶：
  卒後5年目の松石と申します。今年から縁あって広島に来ることになり、総合診療科でお世話になることになりました。慣れないことも多くご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

編集長からひとこと

遠路遥々よくぞいらっしゃいました。新天地であり、なにかと困る点もあるかと思いますが、なんでもご相談ください。まずは親睦を深め、AUDITの勉強ですね。オブラートに包みきれず、失礼な振る舞いをすることがあるかもしれませんが、仲良くやっていきましょう。困ったことがあれば、医局員が光を指し示します。

大学院生紹介

大東 敏和 先生

2019年度 PhD取得

- 出身地：京都府
- 出身校：京都大学薬学部（平成18年度卒）
- 血液型：A型
- ニックネーム：とし
- 趣味：サッカー観戦（サンフレッチェ広島）
- どんなお子さんでしたか：
  小柄でおとなしい子供でした。
- 尊敬する人は：妻（自由な旦那にもかかわらず子供3人が育っている）
- 研究内容：
  胆汁中Lysophosphatidylcholineによる胆管上皮細胞障害に対するphosphatidylcholineの保護効果の検討を行いました。
  phosphatidylcholineは医薬品ではEPLカプセルです。
- ひとこと挨拶：
  4年間大学院生としてお世話になりました。引き続き大学病院薬剤部に勤務しております。今後ともよろしくお願いいたします。

木村 一紀 先生

- 出身地：鳥取県
- 出身校：鳥取大学（平成24年度卒）
- 血液型：O型
- ニックネーム：キム
- 趣味：料理
- どんなお子さんでしたか：大人しい
- 尊敬する人は：手塚治虫
- 研究内容：医療者の地域偏在
- ひとこと挨拶：
  大学院生として楽しく充実した研究ができるのを目指しています。

長尾 晶子 先生

- 出身地：愛媛県
- 出身校：徳島大学（昭和63年度卒）
- 血液型：AB型
- ニックネーム：あっこさん
- 趣味：
  ウォーキング（毎朝1時間徒歩通勤です）、
  映画鑑賞、四国八十八か所参り（3月結願）
- どんなお子さんでしたか：
  生真面目で、一度決めたらずっと続けるタイプだったそう。
- 尊敬する人は：亡くなった自分の息子
- 研究内容：スリーブ状胃切除術による減量効果の関連因子
- ひとこと挨拶：
  総合診療科の先生方は、広く知識を持たれてすごいな、と日頃から感じています。これからも教えていただきたいです。栄養や高度肥満に関しては、お声がけください。

児玉 尚伸 先生 Masanobu Kodama

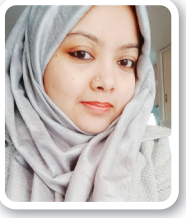
2019年度 PhD取得

- 研究内容：
  博士課程において、高血圧を伴った非アルコール性脂肪性肝疾患の動物モデルの胆汁酸組成の研究を行い、 2020年1月学位を取得できました。学位取得できたのは、菅野先生をはじめ、田妻先生、伊藤先生の御指導によるものであり、非常に感謝しています。

Ratna Anggiasari Gunara 先生

- 出身地：Indonesia
- 出身校：Gadjah Mada University（平成21年度卒）
- 血液型：B型
- ニックネーム：Ratna
- 趣味：body-painting
- どんなお子さんでしたか：
  cheerful and easygoing little girl
- 尊敬する人は：all teachers in the world
- 研究内容：
  I am picturing malaria trend and the management between Japan and Indonesia toward global malaria elimination. By paying attention to aspects of malaria prevention and countermeasure, Indonesia is expected to be able to follow Japan's successful steps in eradicating malaria in the past and its current management.
- ひとこと挨拶：
  I am a mother who is still eager to pursue ideals for higher education, even though delayed for a while. Hopefully, there is another opportunity to win a PhD, so that one day my children can follow in my footsteps and have a better life.

Tanjila Farzana 先生



- 出身地：Bangladesh
- 出身校：University of Chittagong
- 血液型：A型
- ニックネーム：Tanjila
- 趣味：gardening and painting
- どんなお子さんでしたか：very introvert and shy
- 尊敬する人は：a good researcher
- 研究内容：
  My research content is "The factor associated with diabetes mallitus with Helicobacter pylori infection". Mainly this research is for those people who have already diabetes and also associated with pylori infection or not.If infection is there what should be the treatment plan and how to control and manage both the way.
- ひとこと挨拶：
  I am a very enthusiastic single mother of a 8year young child who is the main strength of my life.Though is seems sometimes a little bit difficult being single mother but I think with all the positive energy, enthusiasm I can achieve all the happiness for my daughter.

何よりの思い出は、いつも明るく優しかった皆さんです

中島 美佳 Mika Nakashima

各地が新型コロナウイルスの脅威に晒されたこの3月、総合内科・総合診療科実験室での研究生活を終えることになりました。

平成22年から2回の産休育休を挟みまして実質8年間、思い起こせばたくさんの方々との出会いと別れがありました。ほとんどの時間を実験室で過ごしていましたので普段直接お仕事で関わる方は多くありませんでしたが、共に実験室で過ごした研究員や学生さん、医局の先生方、秘書さん等々、10年の間に顔ぶれが変わり、立場が変わり、そして部屋も変わり… 総診の歴史の一端に触れることができたように思います。皆さまがいつも明るく、優しく、楽しくあったことが何よりも良い思い出です。

これからも私は医学の発展と人々の健やかなる人生の一助になるべく研究の道で奮闘してまいります！総診の皆さま、本当にありがとうございました。

留学報告

目先の結果ばかりにとらわれがちの私に新たな視点を与えてくれます

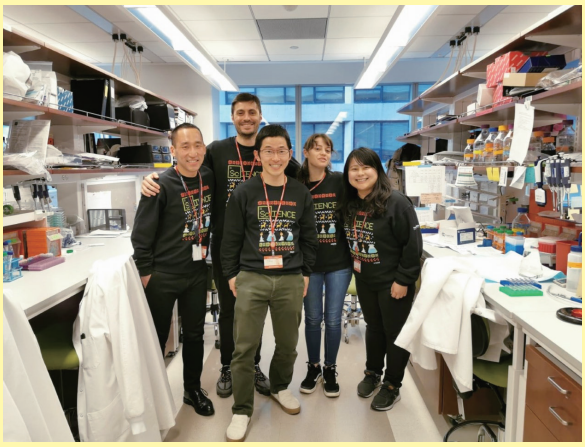
杉山 晶子
Akiko Sugiyama
Postdoctoral Associate
David E. Cohen Laboratory
Department of Medicine
Division of Gastroenterology and Hepatology
Weill Cornell Medicine

現在、私は米国ニューヨークのコーネル大学（Weill Cornell Medicine）で研究生活を送っています。所属ラボは、肥満や非アルコール性脂肪肝疾患などの代謝合併症に対する新しい分子標的の特定を目指しており、私は脂肪酸などの疎水性リガンドに結合するLipid Transfer domainをもつAcyl-CoA Thioesterase12の機能解明に取り組んでいます。

ボスのDr. David CohenはScience愛とユーモアに溢れた先生で、Lab meetingでは、PI、消化器内科医として多角的にデータを捉える一方、Editor（DavidはHepatologyのEditor Chiefでもある）側として“この研究でCoolなことは何？”と常に問いかけ、つい目先の結果ばかりにとらわれがちになってしまう私にとって新たな視点を与えてくれます。またラボを越えた交流にも積極的で、施設内外の研究者とオープンなディスカッションをしながら研究を進めるのも印象的です。

ラボメンバーはアメリカだけでなく、南米、ヨーロッパ、アジアと国際色豊かですが、みな仲が良く、花金には論文acceptだ！誕生日だ！と何かある度に（何もなくても）Happy hourをしています。研究に限らずいろいろな事柄に対する考え方・表現法も様々で、そういった多様性に触れることは私の財産となっています。今はCOVID19の影響からZoomで会う日々ですが、再びラボで一緒に働くのが楽しみです。

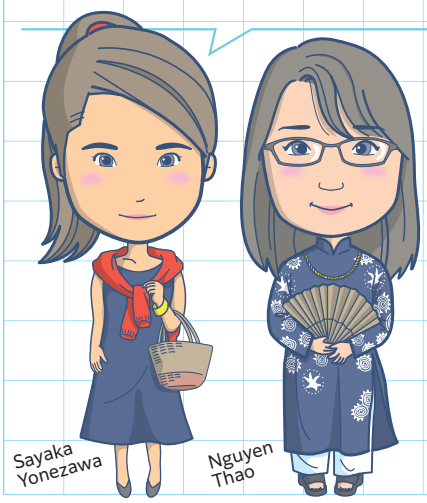
最後にこのような貴重な機会を与え快く送り出してくださった田妻前教授をはじめ、医局・研究室の皆様に感謝いたします。



ポスドクメンバーと vendor showで
getしたお揃いのパーカーを着て（@ Lab）

Liver Meeting 2019
Reception Party (with David)

アットホームな実験室で多くの方との出会い重ねる毎日です



Nguyen Thao
研究員
University of Medicine and Pharmacy at Ho Chi Minh city, DDS（歯科医師）
広島大学大学院
医系科学研究科, PhD
趣味：研究と占い
血液型：B 型

米澤 さやか
研究助手
大阪府立大学大学院
応用生命科学専攻
修士課程修了
趣味：旅行
血液型：O 型

実験室報告

実験室に勤務しております研究助手の米澤さやかと申します。タオちゃんことベトナム出身の研究員Nguyen Thao 先生と一緒に毎日楽しくお仕事させていただいております。実験室には先生方が日々の診療や業務の合間を縫って実験に来られたり、薬剤部の先生、薬学部や医学部の研究実習の学生さんたちが実験に来られます。Nguyen Thao 先生をはじめ、たくさんの優秀な楽しい方々に囲まれたアットホームで明るい雰囲気の実験室です。実験設備もさらに充実してきており、このような良い環境の中で様々な研究をお手伝いさせていただけることは、とてもやりがいがあります。マウスの解剖など長時間の集中力を要する実験の際はチームワークも素晴らしいと思います。地道な実験の結果をもとに、最終的に先生方の学位論文がアクセプトされPubmed に掲載される時は本当に嬉しく思います。至らない点が多々ありますが、これからも微力ながら先生方や学生さんのお手伝いをさせていただきたいと思います。

外来診療担当表

◉総合内科・総合診療科 紹介連絡先：082-257-5460

	月	火	水	木	金
総合診療科 外来	伊藤 公訓 大谷 裕一郎	石田 亮子 小林 知貴	菅野 啓司 菊地 由花	伊藤 公則 岸川 暢介 宮森 大輔	岸川 暢介 菊地 由花 小林 知貴

不明熱、原発不明癌、多愁訴、漢方診療、また紹介先に苦慮する症例等ございましたら、是非ご紹介ください。診断から治療まで、他の診療科とも連携し、患者様と先生方のご期待に沿えるよう努めてまいります。

当院では地域連携（FAX 082-257-5489）を介し、ご紹介していただくことを基本としておりますが、**平日日勤帯（午前８時半ー午後４時）は当日のご紹介も受け入れております。**上記の電話番号、もしくは、広島大学病院の代表電話（082-257-5555）より、総合診療科の当日の外来責任者のPHSへ転送していただけると幸いです。ご連絡をお待ちしております。

学会案内 Society Guide

第11回 日本プライマリ･ケア連合学会学術大会

当初、５月末に開催を予定しておりました田妻進前教授を大会長とする第11回日本プライマリ･ケア連合学会学術大会ですが、新型コロナウイルス感染症と、それに伴う政府要請の影響により、以下の日程によるWEB開催へ変更となりました。

オンデマンド配信
7月23日（木･祝日）～8月31日（月）

Zoomウェビナーを利用した
ライブ配信
8月29日（土）･30日（日）

大会サイトへは
こちらから

◎ご多用のことと存じますが、ご参加いただけますと幸いです。

編集後記

助教 河原 章浩 Akihiro Kawahara

盛夏の候、皆様ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、広島大学総合内科・総合診療科では、年刊誌として「Soshin press」を発刊することになりました。同門の先生方に当教室に関する情報をわかりやすく発信し、当教室のさらなる充実と連携強化を図って参りたいと考えております。

今後、本誌を通じ、先生方のお役に立てるような情報を発信出来るよう、紙面の充実に取り組んで参りたいと考えております。今後とも優秀な総合医・家庭医の育成を目指す広島大学総合内科・総合診療科教室に対しまして、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

Contact us

広島大学病院総合内科・総合診療科へのご意見・ご質問は…
E-mail soshinhp@hiroshima-u.ac.jp

ホームページ https://home.hiroshima-u.ac.jp/soshinhp/
facebook https://ja-jp.facebook.com/sogoshinryou/

ホームページ
facebook

広島大学病院 総合内科・総合診療科 ニュースレター vol.1
■発行日：2020（令和２）年７月７日 ■発行：広島大学病院 総合内科・総合診療科 〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 TEL.082-257-5460